

理科・環境教育助成 成果報告書

第3回 期間：2005年11月～2006年10月

氏名：定村 修 所属：刈田町立新津中学校

課題名：防風林の維持活動を通して環境を考えるとりくみを企画する

1. 課題の主旨

防風林のクロマツを植樹し、育てることを通して、防風林のはたらきや、その地域における生態系のつりあいを考える。

2. 活動状況

助成が決定し、関係機関との調整の時期に本町の町長選挙が行なわれ、新担当者と打ち合わせをすることになり、2006年になってやっと具体的に動き出した。

1 事前の作業としては下記の4点を行なった。

(1) 行政との打ち合わせ

- ①教育委員会より農政課へ趣旨説明
- ②農政課より県農林事務所へ植樹区域の借用願い
- ③農林事務所に植樹当日の指導を依頼

(2) 白石区との打ち合わせ

- ①老人会の協力を依頼
- ②下草刈りなどの日常作業を依頼
- ③植樹当日の指導を依頼

(3) 森林組合との打ち合わせ

- ①品種の紹介と見積もり依頼
- ②発注

(4) 生徒の学習

- ①松枯れ病について知ろう
- ②植栽しよう

2 植栽経験がまったくないメンバーであったが、さまざまな場所で教えてもらいやっと植栽計画ができあがった。主な点は下記のとおりである。

(1) 保安林の一部(17m×22m程度)を借用し、1.5mメッシュに分割し、それぞれの交点に苗木を1本植え、4人一組で4本を担当する。複数を組にしたのは「①根を張るまでにかれる可能性があること。②将来的には4本のうち3本を間引きし、3m間隔で残ればよい。」ためである。

(2) 苗については価格差が大きい抵抗性を信じて、筑前スーパークロマツのポット苗にした。

- (3) 生徒が使用する道具は、人数に対して作業面積が狭いので長手のスコップが使えず1チーム2本の移植ゴテを準備した。
- (4) 客土は砂と腐葉土の混合物を使用する計画ですすめたが、赤土をもらえるようになり赤土と腐葉土の混合物とした。
- (5) 遅効性の肥料として苗木1本につきウッドエース4粒を地面においた。
- (5) 保護柵の設置が望ましいが、予算の都合や他の区域とのつりあいも考慮し、支柱のみとした。

3 植栽

(1) 3月16日

- ①区域全体に1.5m×1.5mのしるしをつける。
- ②交点に支柱を立て、カラーテープで4本ごとに標識をつける。

(2) 3月17日

7:00 荷物積みこみ

ミキサー1台/とろ船2個/移植ゴテ4箱/角スコ4本/剣スコ2本/木づち3本/金づち20本/なた1本/コンパネ2枚/発電機1台/電源延長コード1本/ガソリン1缶/バケツ25個/エブ9杯/移植ゴテ90本/はさみ2本/スピーカーマイク1台/長机5脚/肥料40袋/ウッドエース1袋/苗200本/麻ひも2巻/給食用トレイ200枚/ゴミ袋大100枚/キッチンペーパー2巻/トイレトペーパー4巻/ブルーシート2枚/紙おしぼり200本

8:00 ミキサー運転開始(肥料:赤土=1:1)

9:00 参加者集合 最初の集会①あいさつ ②サポーター紹介(老人会 婦人会 農林事務所 農政課 森林組合) ③サポーター代表あいさつ

9:25 ごみ拾い開始

10:10 ごみ拾い終了 植樹要領説明

10:30 植栽開始

11:45 植栽終了 おわりの集会①あいさつ ②お礼のあいさつ サポーター解散

12:20 生徒給食開始

13:00 生徒解散 用具撤収

(3) 4月11日 生育状況調査 生育率100% 枯れ葉なし

(4) 6月4日 生育状況調査 生育率100% 枯れ葉なし

(4) 9月18日 生育状況調査

枯れたものや切断したもの 27本 葉の一部が枯れたもの 11本

(5) 10月11日 生育状況調査

枯れたものや切断したもの 29本 葉の一部が枯れたもの 140本

3. 結果

9月18日 生育率86.5% 枯れ葉がないもの81.0%

10月11日 生育率85.5% 枯れ葉がないもの15.5%

という結果が出ているが、生育できなかった原因は①草刈機による切断5.0% ②他の原因（植樹時の根のさばき不足など）9.5%となる。また、葉の一部が枯れているものは、ほとんどが海側だけが枯れており、塩害と考えられる。

4. 今後の課題と発展

9月以降、降水量が少なく、塩害が拡大するおそれもある一方、降水量が増えれば洗浄効果により進行は止まると期待している。9月より生徒による観察を継続しているが、今後も毎月実施したい。また、結果をもとにした学習に加えて、保安林にくらす生物の状況や海岸の歴史についての学習も深めたい。

今回の活動を引きつぎ、次春も植樹を行なう予定である。

5. 発表論文、投稿記事及び当財団へのご意見など

貴重なり組みを実現させてもらい、とても感謝しています。今回の企画は、まったくの手探り状態でスタートしたので、事前に提出した予算計画に当てはまらないものは別予算での支出となりました。提示されている20%というワクをもう少し増やしていただければ活動しやすいと思いました。